

大分県臼杵市 竹ぼんぼり発祥の地

うすき竹宵

たけよひ

日本夜景遺産
認定

令和五年 十一月四日(土)・五日(日)

竹ぼんぼり、オブジェの幻想的な灯り
時代絵巻のような般若姫行列
幻想的な美しい臼杵の城下町で
秋夜の散歩をお楽しみください。



うすき竹宵とは？

大分県の東海岸に位置し、国宝の白杵石仏や

醤油・味噌・酒の醸造、至る所に古き良き

町並みが残る城下町、白杵。

秋夜の荘厳な催し「うすき竹宵」

元々は竹山の保全を目的として始まりまし

竹ぼんぼり、竹オブジェの灯りが温かく彩ります。

白杵に古くから伝わる「真名長者伝説」

般若姫の御霊が両親と娘の待つ白杵市へと里帰りを表現した、

「般若姫行列」の美しきは圧巻です。

幻想的な世界に酔いしれてみませんか？



【真名長者伝説】

白杵の誇りである「白杵石仏」は炭焼小五郎が奈良の都から来た玉津姫と結婚した事で後に真名長者と呼ばれる大金持ちになりこの真名長者が造ったと伝えられています。

二人のあいだに産まれた娘は般若姫と言います。その美しさと気品は世間の評判となりました。般若姫の噂を聞いた時の朝廷は、姫を妃として都へ差し出すように使者を遣わしますが、長者は一人娘と言う理由でこれを拒み、代わりに姫の姿を書き写した「玉絵箱」を献上しました。献上された玉絵箱を見て恋に落ちた若者がありました。それは、後の用明天皇。当時は橘の豊日の皇子でした。皇子は般若姫に逢うため草深い白杵に下り、牛飼いに身をやつて長者のもとに身を寄せ、やがて般若姫と結ばれました。しばらく幸せな時を過しますが、皇子は朝廷に呼び戻され懐妊していた般若姫を残して都へと帰っていきま

した。しばらくして般若姫は玉絵箱と言っかわい女の子を出産します。そして、般若姫は産まれたばかりの玉絵箱を残し、皇子の待つ都を日指して白杵の港から船出します。

ところが、途中嵐に遭い、婦らぬ人となりました。悲しんだ長者夫婦は、般若姫の供養のため玉絵箱の里帰りを願ひ出で、朝廷もこれを許されました。

亡き般若姫の姿を描いた「玉絵箱」は長者夫婦にとっては娘。玉絵箱にとっては母そのものだったのです。

町の人々は暗い夜道を竹ぼんぼりで明るく灯し玉絵箱をお迎えしました。

至フェリー乗り場

中須賀橋
交差点

辻口交差点

竹宵会場

白杵城跡

観光交流
プラザ

交通規制
11月4日・5日
17:00~21:00

交差点

柳原交差点

第27回うすき竹宵 交通規制箇所

《位置図》

